

## 大人の責任とは何か

大崎さん夫妻は訴えま  
す。「警察の検問などで捕  
まり『運が悪かった』とか  
『気の毒だった』と皆さん  
は思うかもしれませんが。し  
かし、それは逆に運のいい  
人だと思いません。自分の人  
生を棒に振る前に、警察に

助けてもらったのですか  
ら」と。

そして続けます。「未来  
ある子どもが車社会の犠牲  
になってはなりません。子  
どもたちを飲酒運転事故か  
ら守ることが、わたしたち  
大人の責任ではないでしょ  
うか」。

皆さん、大崎さん家族の  
現状を自分自身に置き換え

てみてください。自分の人  
生を棒に振り、家族に悲し  
い思いをさせ、ましてや他  
人の人生までも巻き込む飲  
酒運転は決してできる行為  
ではありません。

### 思い出してください

今、全国各地に数え切れ  
ないほどの交通事故被害者

遺族の方がいます。その  
方々は一生悲しみを背負い  
暮らしていかなければなり  
ません。

もし、あなたが飲酒をし  
「これくらいなら大丈夫」  
とハンドルを握りそうにな  
ったとき、もし、あなたが  
「わたしには、おれには関  
係ない」とそれを知って止  
めなかったとき、思い出し

てください。あなた自身の  
人生と、大切なあなたの家  
族のことを。そして、飲酒  
運転による事故で苦しんで  
いるたぐさんの遺族がいる  
ことを――。  
飲酒運転は単なる交通違  
反ではなく、重大な犯罪行  
為なのです。  
それでも、あなたはでき  
ますか。

大崎さんの自宅には二度と腕を通すことのない  
涼香ちゃんの運動着が今でもありました。あの日、  
あの時、飲酒運転という犯罪に遭わなければ…

## ●取材を終えて

大崎さんの講演を聴いて、自分に何  
ができるか考えてみました。飲酒運転  
を普代村からなくしたい。悲しい思  
いを村民の皆さんにさせたくない。  
そう思いました。

たった数週間の取材と数枚の写真で  
すべてを伝えることはできませんが、  
「何かをしなければ、何も変わらない」。  
そんな思いで特集に取り組みました。

しかし現実には、全国で飲酒運転者の  
検挙や悲惨な事故が続いています。

車を運転する人にとって、事故を起  
こす確率は誰にもつきまといま  
す。それは近くに出掛けるときであ  
らうと、遠くに出掛けるときであ  
らうと変わりはありません。それが  
正常でない飲酒運転だったらその  
確率は一気に跳ね上がります。

そう考えると飲酒運転がなくな  
らない限り、誰かが、誰かの家族  
が、被害者または加害者になる確  
率は、ゼロにはならないのです。  
結果、いつか悲劇は起こるかも  
しれません。全国で、県内で、  
せめて普代村でそういう犠牲者  
が出てほしくない。そう強く思  
いました。

現在、普代村は県内で飲酒運転  
検挙率がワースト2位ですが、今  
からでも決して遅くないと思  
います。むしろこれを契機に運  
転者はもちろん、家族、周囲の  
人、すべての人が「飲酒運転は  
絶対にいけない」「飲酒運転は  
犯罪行為」と強く思っ  
てほしいと願います。

今回の特集で、取材に協力して  
いただいた皆さんに、またつら  
いお話しをしてくださった大崎  
さん夫妻に心から感謝いたしま  
す。ありがとうございました。

◆ ◆ ◆  
大崎さんの飲酒運転の厳罰化を  
訴える署名用紙が役場村民ホ  
ール広報紙閲覧のところに置  
いてあります。大崎さんら遺  
族の声をかなえるためにも、  
趣旨に賛同される方は署名を  
お願いします。

■取材協力：岩手県久慈警察署、西日本新聞社